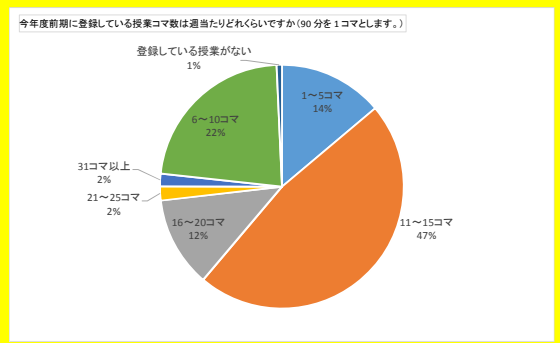
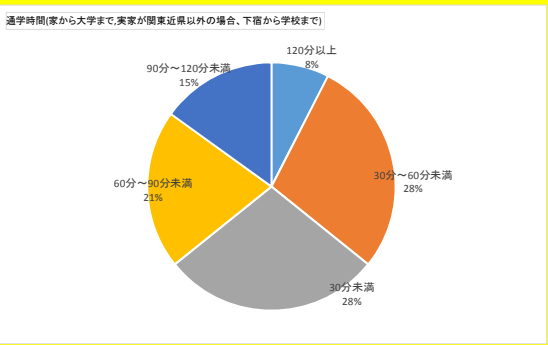
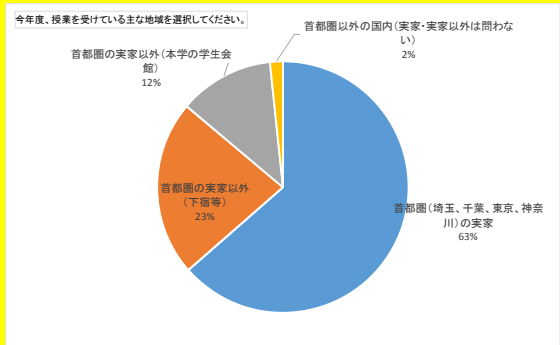


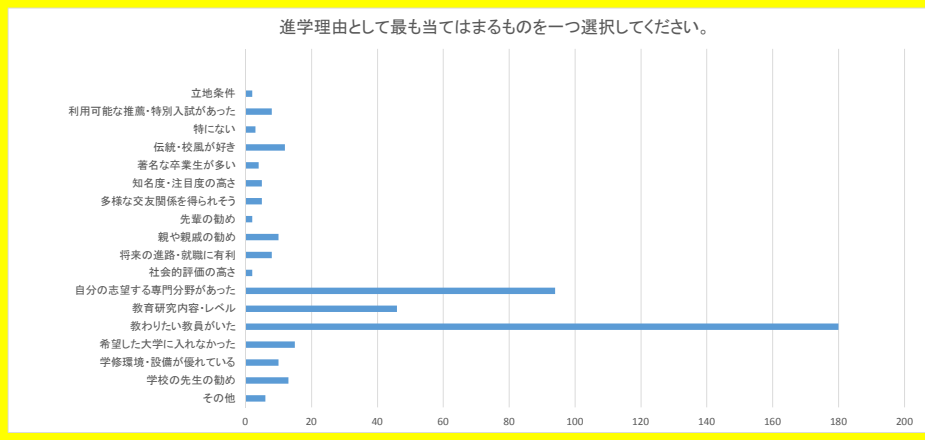
2021年度学修行動・学修行動・学修成果調査について

大学生673名のうち、回答総数は425名(回収率: 63.2%)であった。
 調査は幅広い大学政策に繋がる分析を行い、教育の一層の充実を目的とした。
 学修時間・行動調査結果は、教学マネジメント、内部質保証の検証をはじめ、授業等教育活動の見直しに用いる。

調査対象者の学修及び生活環境



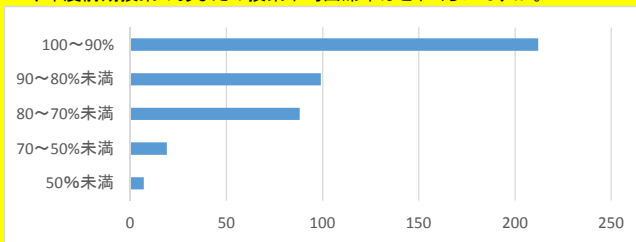
1. <調査対象者の生活環境>
 首都圏に在している学生は75%、コロナ禍において、首都圏外に在している学生は25%であり、通常期の環境と変わらないと言える。



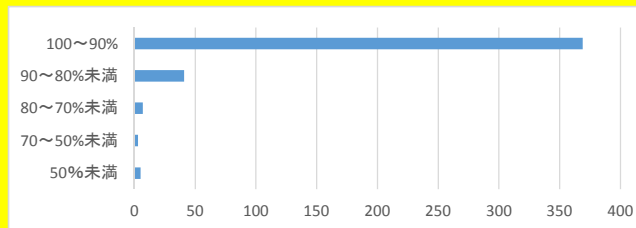
2. <学修時間・学修行動調査>

授業やレッスンの出席率・予習復習時間等の調査については、概ね良好といえる結果が出ている。

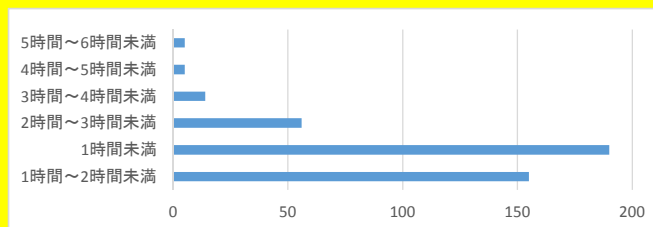
今年度前期授業のあなたの授業平均出席率はどれくらいですか。



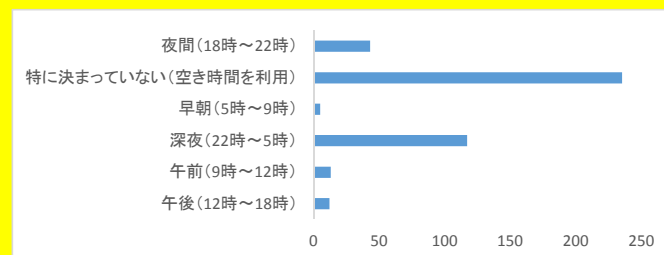
今年度前期のあなたの専攻(副専攻)レッスン・副科レッスンの平均出席率はどれくらいですか。



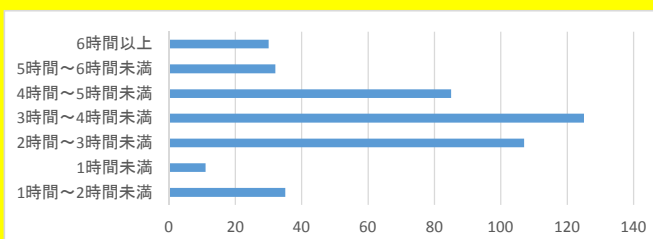
現在、1日に平均すると<大学授業の予習・復習>などにどれくらいの時間をかけていますか。



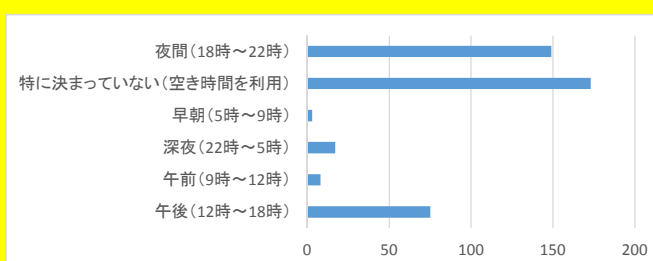
あなたは<大学授業の予習・復習>などは主にどの時間帯に行っていますか。



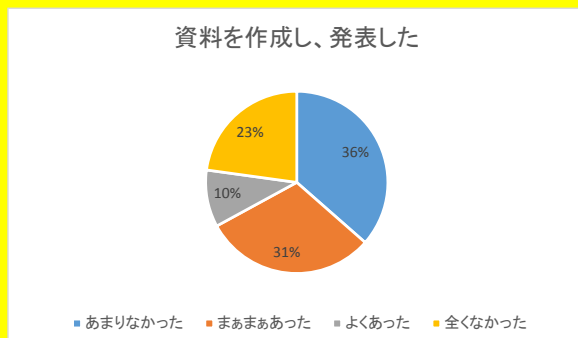
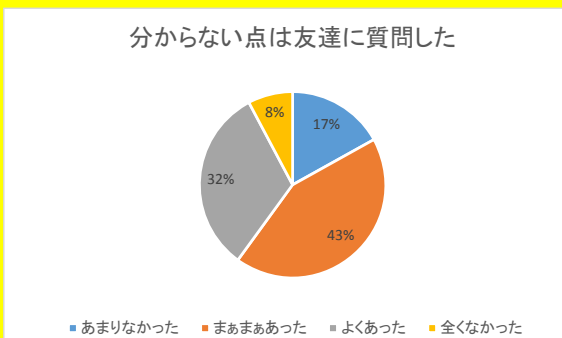
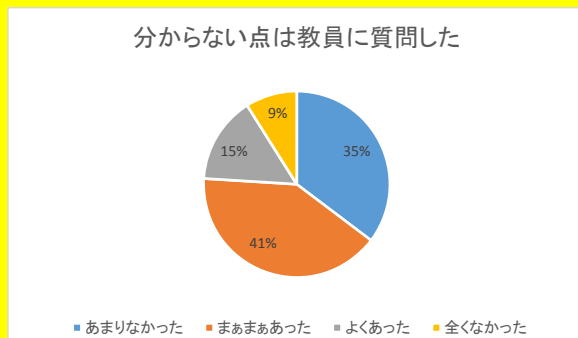
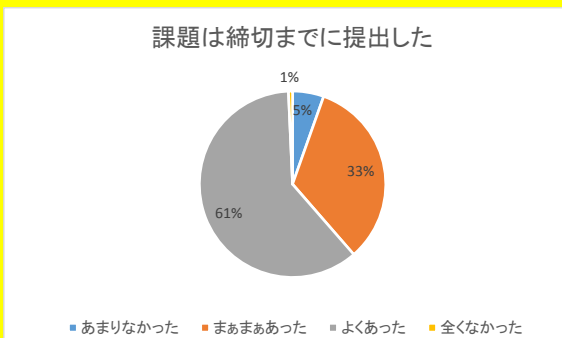
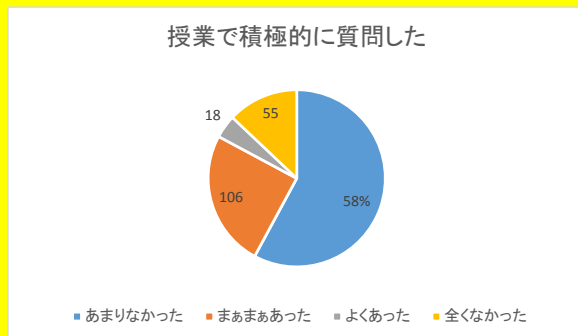
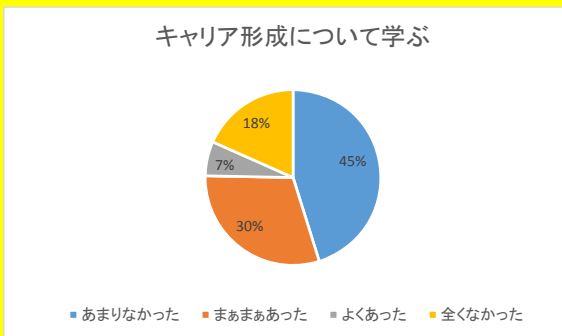
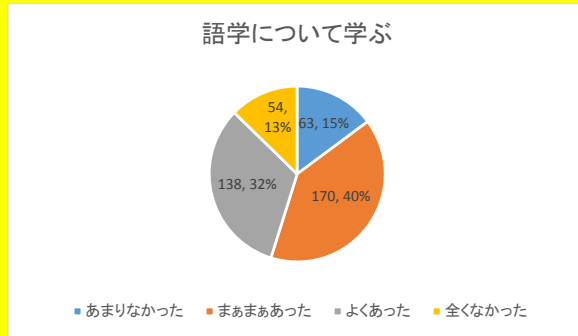
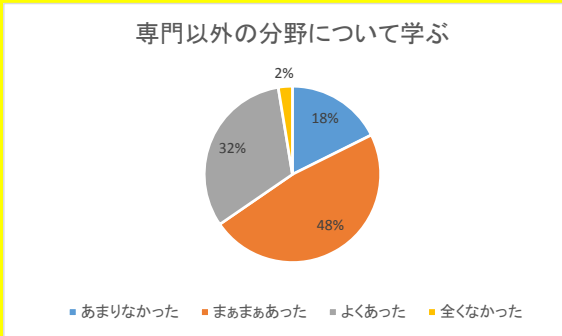
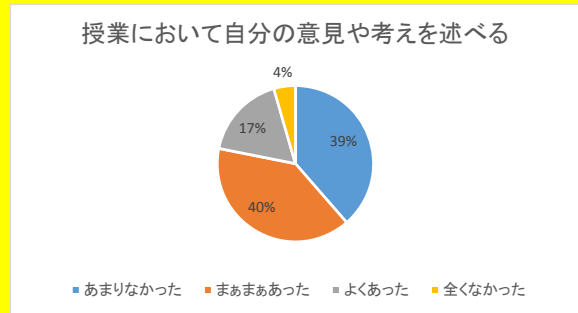
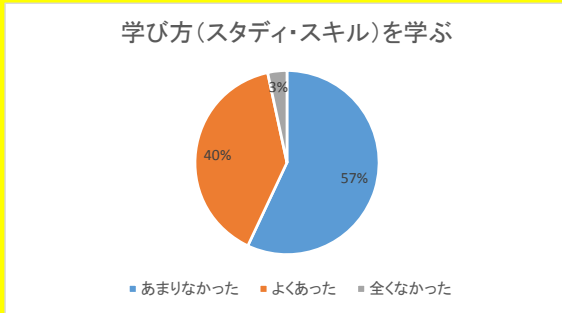
現在、1日に平均すると<専攻実技の練習>にどれくらいの時間をかけていますか。



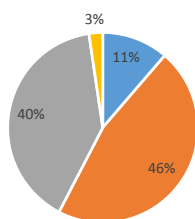
あなたは<専攻実技の練習>などは主にどの時間帯に行っていますか。



3. <学修行動調査>

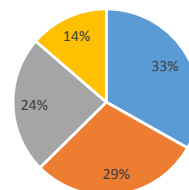


理解できない点について、資料や動画を見返した



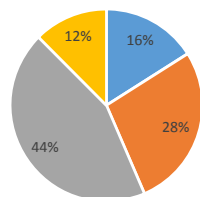
■あまりなかった ■まあまああった ■よくあった ■全くなかった

出来るだけ時間割通りに受講した



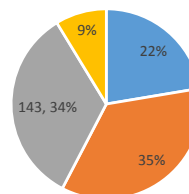
■あまりなかった ■まあまああった ■よくあった ■全くなかった

手帳やカレンダー等に課題提出期限をメモした



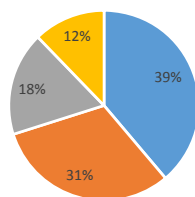
■あまりなかった ■まあまああった ■よくあった ■全くなかった

授業の資料は印刷して利用した



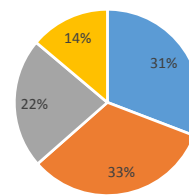
■あまりなかった ■まあまああった ■よくあった ■全くなかった

積極的な休養をとる時間を意識的につくった



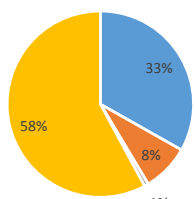
■あまりなかった ■まあまああった ■よくあった ■全くなかった

PCや通信機器に関する情報を調べた



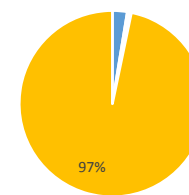
■あまりなかった ■まあまああった ■よくあった ■全くなかった

理由なく授業を欠席した



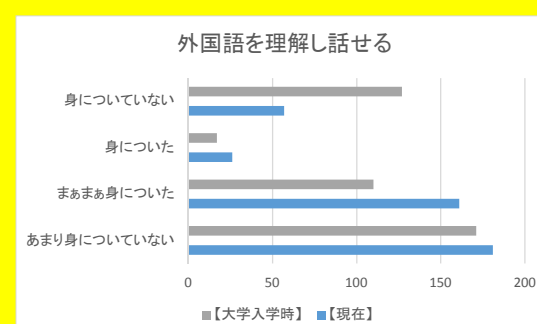
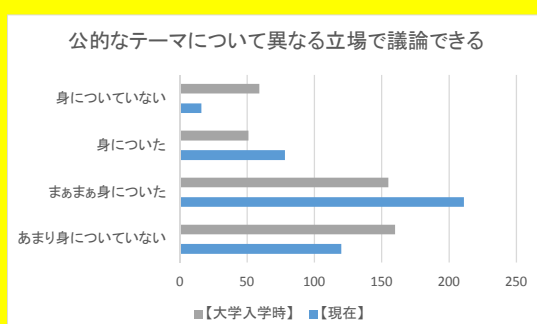
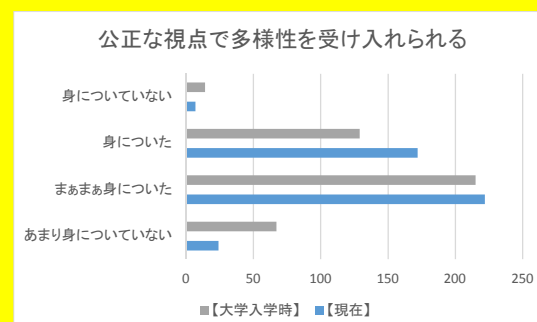
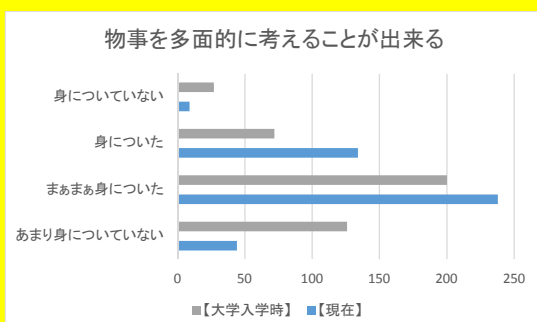
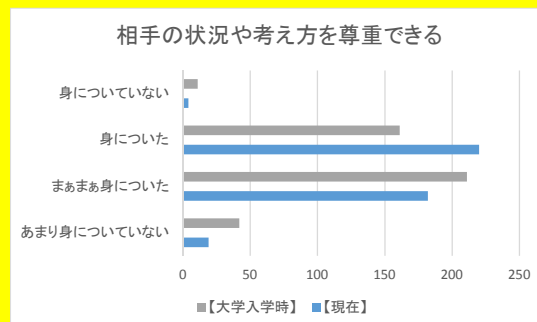
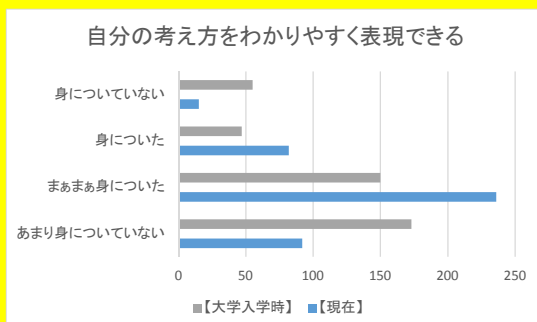
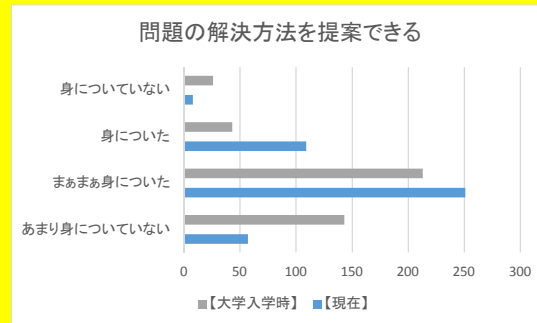
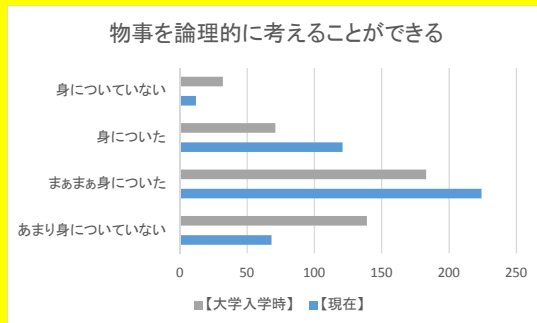
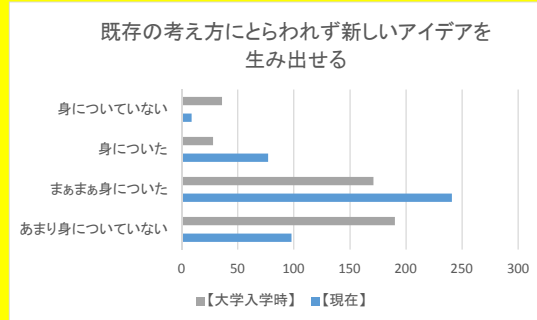
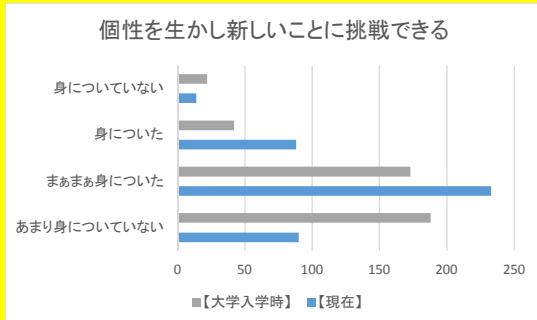
■あまりなかった ■まあまああった ■よくあった ■全くなかった

理由なくレッスンを欠席した



■あまりなかった ■まあまああった ■よくあった ■全くなかった

6. <入学時と現在の比較／学修成果>



3. <学修行動調査>

「あまりなかった・まああった・よくあった・全くなかった」の4件法で回答の割合を示している。この調査では、授業で自分の意見や考えを述べるのが「あまりなかった」が39%、授業で積極的に質問したことが「あまりなかった」が58%、分からない点は教員に質問したことが「あまりなかった」が35%、これらの結果から資料作成・プレゼンテーション・ディベートの教育とあわせて、それぞれの基となるモチベーション(認知的、感情的、身体的関与の3要素)を育てることが必要と話し合われている。この方向性は以前より話し合われており、今後も継続していく。

4. <オンライン授業との関係>

授業で積極的に質問した58%、分からない点は教員に質問した35%、分からない点は友達に質問した43%、と2020年度以降開始されたオンライン授業との関連性は深く、昨年度から続く雑談問題やオフィスアワーの利用度が低下している点にも注目すべきある。

5. <社会人としての基礎力>

今回、キャリア形成について学ぶ機会が十分に周知されていない可能性があったと思われる。早期にキャリア専門講座の拡大とその周知について取り組んでいく。経済産業省によって提起される「三つの力」、前に踏み出す力(主体性・働きかけ力)、考え抜く力(課題発見力・計画力・創造力)、チームで働く力(発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握・規律性・ストレスコントロール力)、これらを卒業までに身につける目的により、学習支援環境の整備を進めながら、コロナ禍を過ぎた時期にも有効となるようなキャリア・サポートを行っていく。

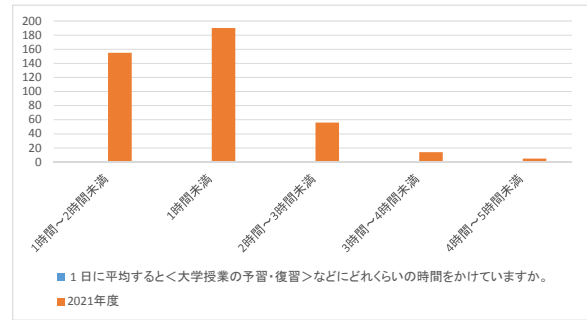
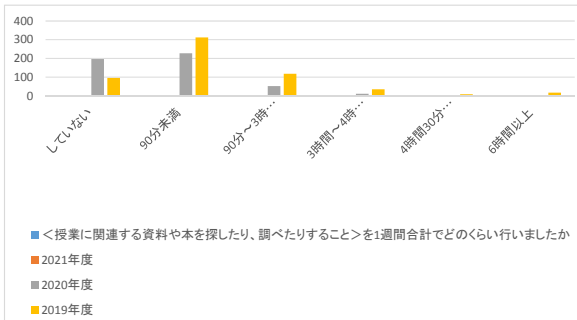
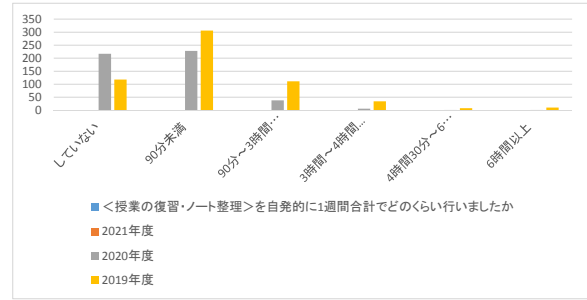
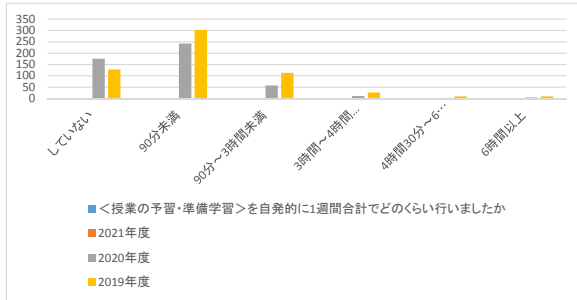
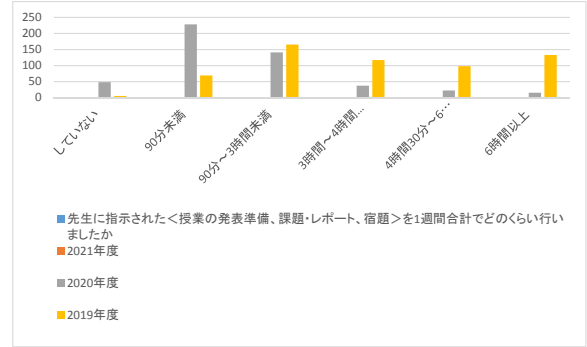
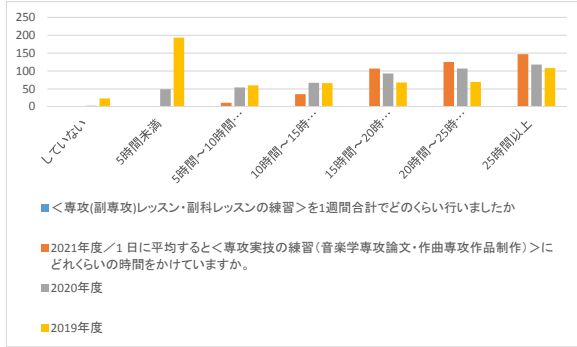
6. <学修成果調査結果>

この調査は記名方式で実施。今回は「入学時」と「現在」を比較する方法とし、大学生全員にむけて案内した。「個性をいかし新しいことに挑戦できる。相手の状況や考えを理解できる。公正な視点で多様性を受け入れられる。」以上が「身についた」とする結果であった。「身につけていない」回答に注目すると、「自分の考え方をわかりやすく表現出来る。公的なテーマについて異なる立場で議論できる。外国語を理解し話せる」等が低い結果となった。

【今後の検討課題】

上記結果は、学修行動調査結果と同様に、プレゼンテーションやディベートの考え方に要因が生じている。授業のなかで日常的に改善していく方法をとるよう、教務委員会を中心に具体的な方法を提案していく。また、学生自身の演奏活動やアウト・リーチを通して、音楽による共感力を駆使しながらコミュニケーションの形を自由にデザインするよう展開していく。

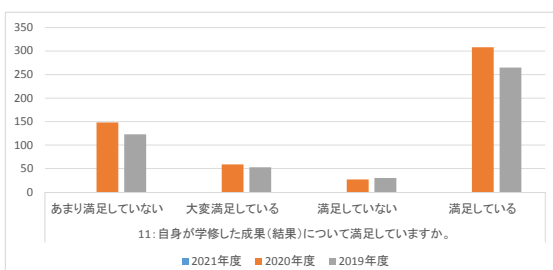
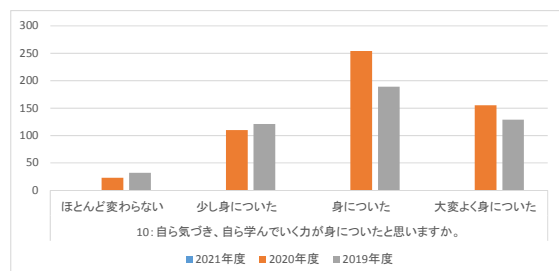
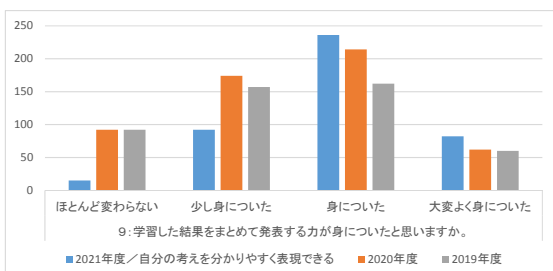
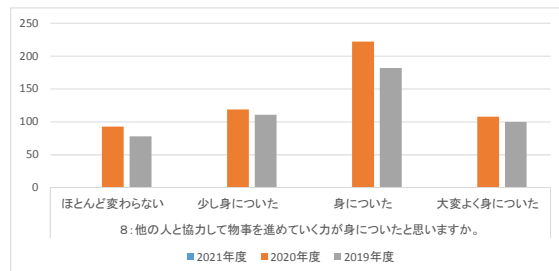
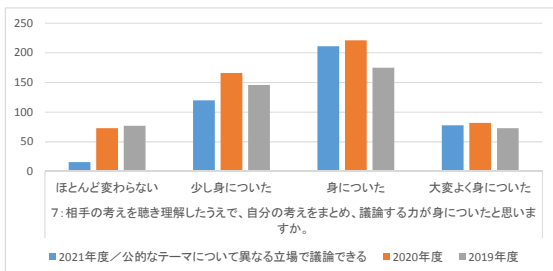
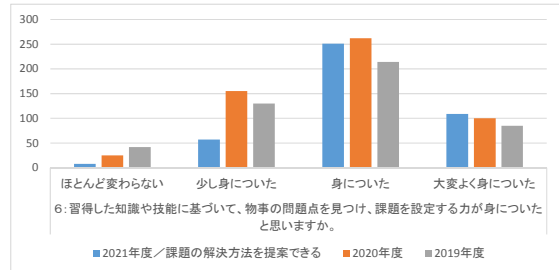
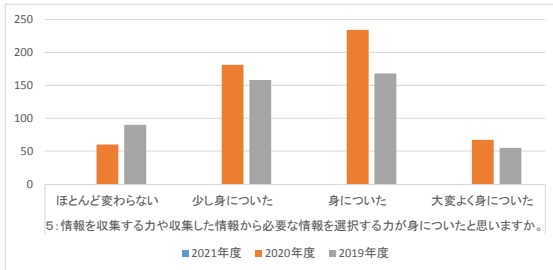
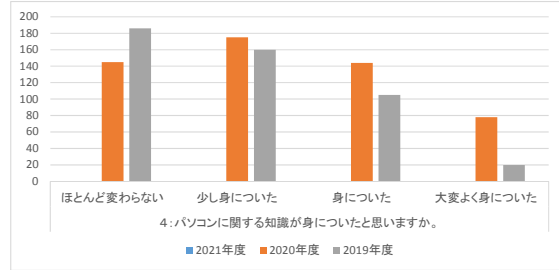
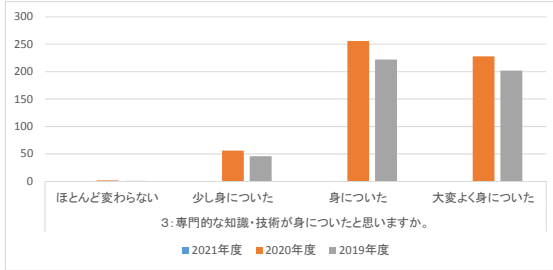
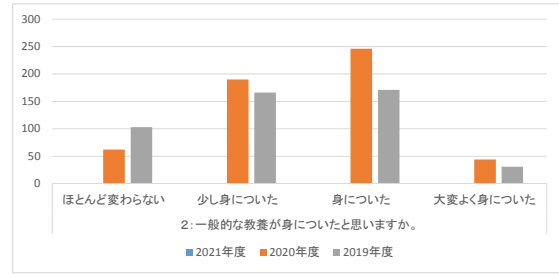
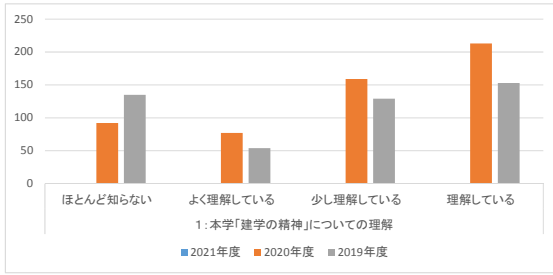
大学 学修時間<2019年度～2021年度比較>



※2019年度、2020年度について同じ質問で調査を実施した。
 2021年度は質問を変更したため、一部分のみ比較を行った。
 ※学修成果の把握については在学期間中に2回以上実施され

実施年度	対象人数	回答数	回答率
2021年度	673	425	63.2%
2020年度	663	491	74.1%
2019年度	680	587	86.3%

大学 学修成果<2019年度~2021年度比較>



※2019年度、2020年度について同じ質問で調査を実施した。
2021年度は質問を変更したため、一部分のみ比較を行った。

実施年度	対象人数	回答数	回答率
2021年度	673	425	63.2%
2020年度	663	541	81.6%
2019年度	680	471	69.3%